

414  
A 202S  
I

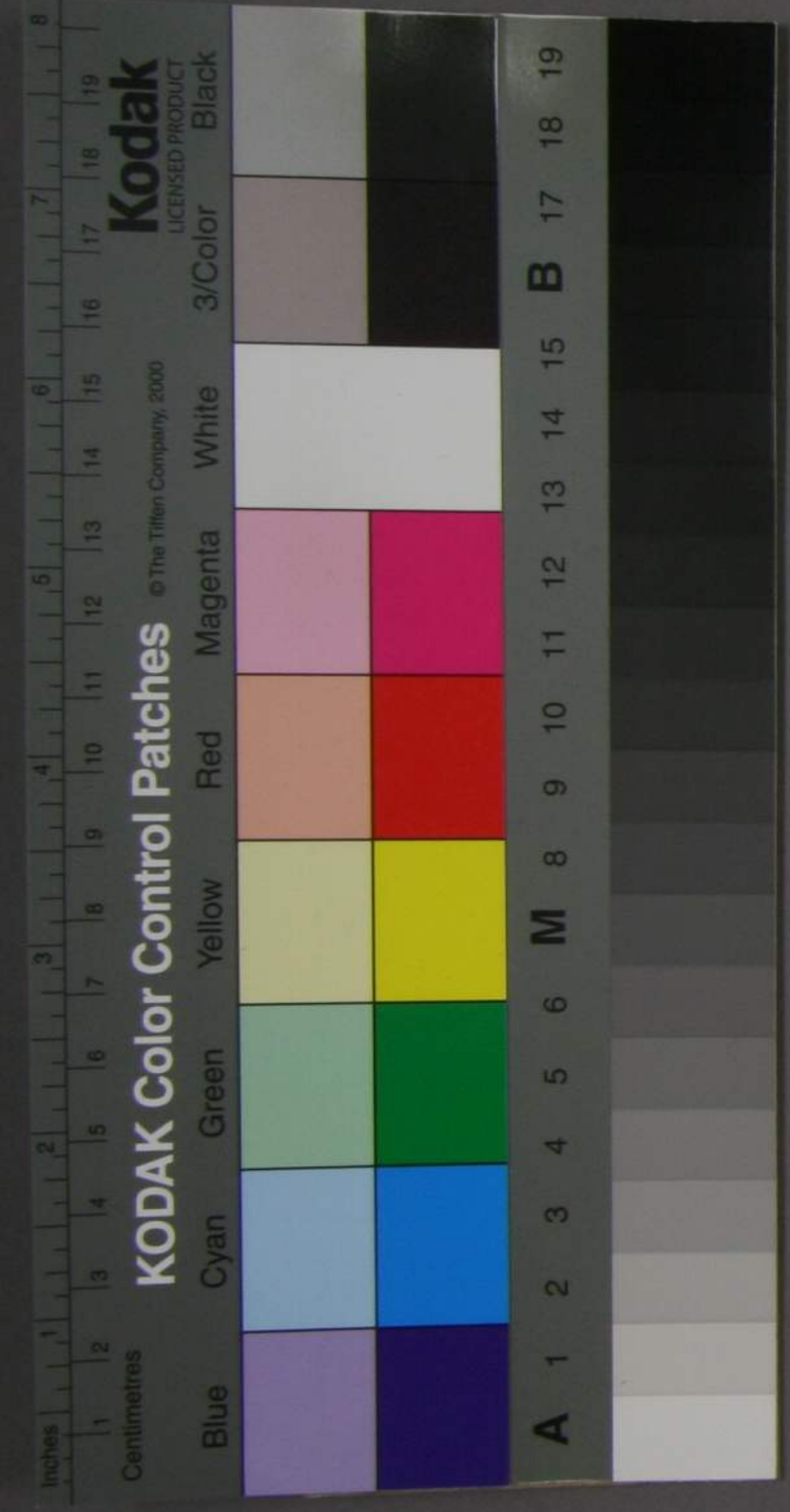


大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

招一

改正論者タルヲ以テ此建議ニ同セリ然レ其改正ト  
据置ト利害得失ノ觀察上ニ至ツテハ本議者ト聊其趣旨  
シ異ニスルヲ以テ一言テ陳ス

当初改正ニ當ツテ政府之レカ年度ヲ立テ地所賣買ニ由テ  
地價昂低スト虽モ五ヶ年間ハ据置タリト云フ抑此五ヶ年  
間据置キタリト言フノ部門ハ地目変換アルモ之ヲ据  
置地勢変更スルモ亦之ヲ据置キ自然々々ニ五ヶ年  
間ノ据置ハ其後再ヒ改正スルノ所以ナルヲ示セリ故  
ニ政府ハ五ヶ年後ハ改正ヲ約スルノ敢ヲナシ  
ユケ年後改正アルノ實ヲ信ス此信ヤ誠ニ守ルニ必  
ルヲ今日政府令レテ尚モ五ヶ年間ハ据置ニシハ人  
民忽チ思ラリ政府ハ何等ノ不信ナルゾ爰ニ約束



114  
A 2028  
2

二背ケリ他ナシ改正ハ政府ニ不便ナル故歟或ハ改正  
シテ租税ノ減額ニ由ル歟政府是等ノモノヲ避ケテ  
忍テ如斯ノ約束ヲ背クト甲信シ乙信シ且相危  
疑シテ遂ニ制スベカラサルノ弊ニ至ラン是宜ク地價  
据置キノ令ヨリ生スル処ニシテ甚憂フベキナリ此憂  
ヤハ々ノ憂ニ非ス必ス巨大ノ憂トナラン是ハ官定  
況ニ就テ憂フル処ナリ故ニ改正主義ノ觀察ヲ陳  
ス

大塚義達

大正十一年四月  
大塚侯爵邸寄贈

地租再調査法案脱稿ニ至ルヲ以テ去七日召集ヲ開キ其  
可否ヲ論スヘキヲ命セラシ其才一ハ本據ノ大体即チ据  
置年期明更ニ地價ヲ調査スルノ得失ヲ議スルモノナリ此議  
案ニ於テ勸議ニアリ一ハ全体ノ地價尚五ヶ年同居置トシ  
其中最モ不平等ナルモノヲ更正スヘシ一ハ全体ノ地價ヲ据  
置トガシ其苛斂ニ苦シムモノ、ミヲ更正スヘシト彼偏重ヲ  
更正シテ其偏輕ヲ同ハサルハ獨リ徵租ノ本意ニ悖ルノム  
ナラス人氏ノ之ヲ見テ皆之ニ恊シテ之ヲ求ムヘシ何ノ能  
ク之ヲ辨明スルヲ得ンヤ説ヲ為スモノ是レ休養主義ナ  
リ是レ政策アリト云フ氏豈偏輕者ニ私シテ政府ノ義  
務ヲ忘ル、モノト言ハサルヲ得ンヤ故ニ其所論必スヤ  
公議ノ為ニ容ラレサルヲ預想ス又ハ深ク憂ルニ足ラサ

大塚侯爵邸

ルヘシ彼全体ノ地價尚五ヶ年間据置トシ其中最モ不  
平準ナルモノヲ更正スヘシト云フノ議ニ至リテ時勢ノ風  
潮ニ注意シ民庶ノ方嚮ヲ視察シテ論スルモノ、如シ  
氏下官等ヲ以テ之ヲ觀レハ本按ノ如ク更正ヲ主美  
ルノ善且美ナルニ若カザルヘシ何ソヤ論者ノ大本  
置トシテ其不平準ナルモノヲ更正スルトハ増減必ス之  
ヲ同フノ意ナルニシ彼ノ減税ナルモノハ素ヨリ論テ其  
増税ナルモノニ至リテハ或ハ言ニ政府何ソ一般ヲ据置  
トシテ獨リ我ニ増スマト其調査ノ難キ又想ヘシ之ニ  
及レテ原按ナルモノハ改正條例追加オハ章ノ意ヲ敷  
衍セシモノナルハ人氏ニ向テ前約ヲ履行スルニ過キサル  
ナリ若シ其方法ニ至リテハ全国ノ情勢ヲ即量シ務テ  
簡易ヲ旨トスルヲ以テ其完全リ据置論者ト同一ニ

シテ論者ノ据置ヘキヲ据置キ其更正スヘキモノヲ更  
正シテ度モ之ニ異ナルヲシ然レ氏更正ヲニ義トスレハ  
偶ニ増税ノモノアルモ決シテ免ルヘカラサルヲ知ルヘシ  
又易カラスマ唯彼更正年度ノ短縮ニ過キテ人民ノ煩  
ニ堪ヘルカ如キ思想ヲ生スヘキヲ論スルモノナリト虽氏  
仔細ニ之ヲ考察スレハ又過慮ト云フヘキノニ如何トナ  
レバ此更正ノ法アルモ据置ノ令アルモ其實際ノ調査  
ニ於テ敢テ疾痛病癢ヲ屢ニセサルヲ以テナリ果シテ  
然ラハ施行ノ難易何レニ在リトスルカ下官等ハ唯能マ  
テ原按ヲ賛成スルノニ謹テ建議ス俯テ  
閣下ノ明察ヲ祈ル頓首

十月十一日  
地租改正局七考出仕 久野謙次郎  
大塚義達

地租改正局

地租改正局七等出仕

片山重範

同

有尾敬重

同

託摩之武

地租改正事務局總裁代理

前島 密 殿

片山重範

片山

有尾

託摩